

令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における 大江小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成31年4月から令和元年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・大江小学校では、5年生 66名

3 調査内容

- ・児童に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。
[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
 - イ 質問紙調査
運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）を実施する。

令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証シート

全体の概要

大 江	小学校	児童数	66
-----	-----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.32	18.86	35.86	40.79	48.61	8.91	153.46	20.29	54.50
大阪市	16.40	19.40	32.70	39.96	48.15	9.41	149.30	21.44	52.53
全国	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.45	21.61	53.61
女子	17.35	20.32	40.32	39.38	39.41	9.35	143.32	12.59	56.81
大阪市	16.15	18.51	37.54	38.38	38.97	9.65	142.68	13.31	54.47
全国	16.09	18.95	37.62	40.14	40.79	9.64	145.68	13.61	55.59

結果の概要

○「長座体前屈」「50m走」「体力合計点」では、男女ともに全国平均、大阪市平均を上回った。男子は、「立ち幅とび」で全国平均、大阪市平均を上回り、「反復横とび」「20mシャトルラン」で大阪市平均を上回った。女子は、「握力」「上体起こし」で全国平均、大阪市平均を上回り、「反復横とび」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」で大阪市平均を上回った。

○本校の昨年度調査の結果と比べて、男子の体力合計点は2.87ポイント減少、女子の体力合計点は1.07ポイント向上している。男子は全8項目中「50m走」「立ち幅とび」の2項目で、女子は全8項目中「握力」「上体起こし」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の4項目で、昨年度数値より改善がみられた。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

今回の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、男女ともに良好な結果を残すことができた。これはこれまでの体力向上に向けた本校の様々な取り組みが成果として表れたものと考えられるため、今後も継続的に実施していきたいと考える。

しかし、男女ともに「反復横とび」「シャトルラン」「ソフトボール投げ」の結果は全国平均もしくは大阪市平均を下回っている。今年度、柔軟性向上をテーマに教員対象の実技研修会を行い、全校的な取り組みとして体育の授業で実践した結果、「長座体前屈」の結果が良好になったことから、児童の体力づくりにおいて、体育の授業や体を動かす学校行事等の持つ役割は大きいことが分かった。そこで、これまでの「耐寒かけ足」「大なわ(8の字とび)児童集会」「スポーツ大会」などの運動習慣づくりの取り組みに加えて、運動会前などにラジオ体操週間を設定したい。また、体育の授業では、走・跳領域の学習の前には鬼ごっこ、体つくりや器械運動領域の学習の前には筋力アップにつながるように、鉄棒や遊具などを組み合わせたサーキット運動を行うなど、準備体操後に5分程度の共通の体力づくりの時間を設定し、ねらいを持たせた運動に学校全体で取り組む。

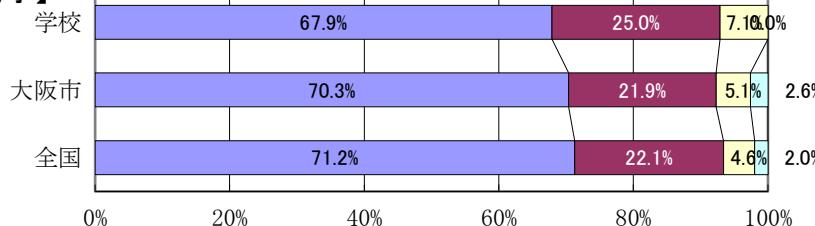
運動やスポーツについて

質問番号	質問事項
------	------

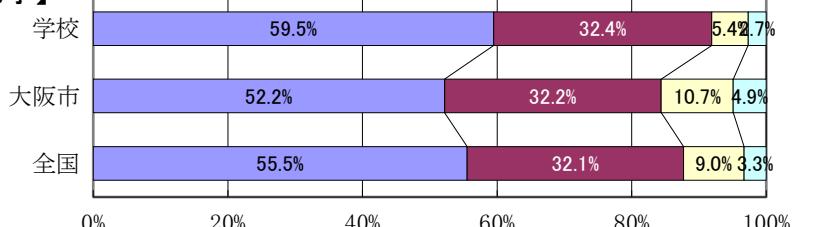
1

【男子】

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか



【女子】

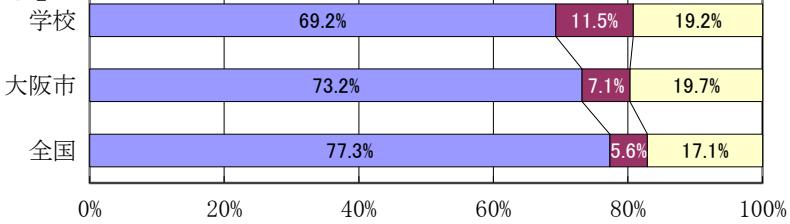


- 好き
- やや好き
- やややきらい
- きらい

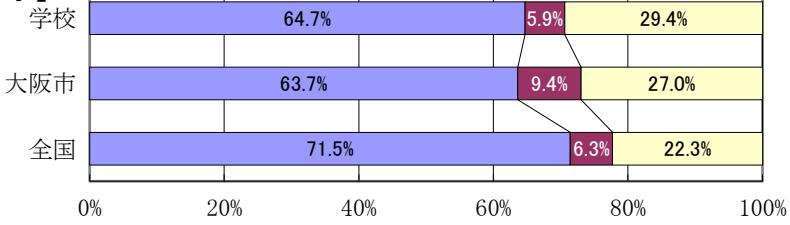
4

【男子】

中学校に進んだら、授業以外でも自主的に運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



【女子】



- 思う
- 思わない
- 分からない

成果と課題

「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」で「好き」「やや好き」と答えた児童は男子92.9%女子91.9%で、大阪市平均、全国平均と比べて、男子は同水準、女子は高い結果となった。また、「中学校に進んだら、授業以外でも自主的に運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをする時間をもちたいと思いますか。」で「思う」と答えた児童は、男子69.2%女子64.7%となり、大阪市平均、全国平均と比べて、男女ともに低い結果となつた。

今後の取組

今回の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、男女ともに良好な結果を残しており、運動やスポーツの大切さを実感しているものの、中学校へ進学した以降も、継続的に運動やスポーツに取り組んでいこうという意欲が低い傾向がみられる。生涯にわたって体を進んで動かそうとする意識を高めていくために、これまでの取り組みをさらに工夫し、体づくりをすすめ、運動に親しむことができる児童に育っていく。

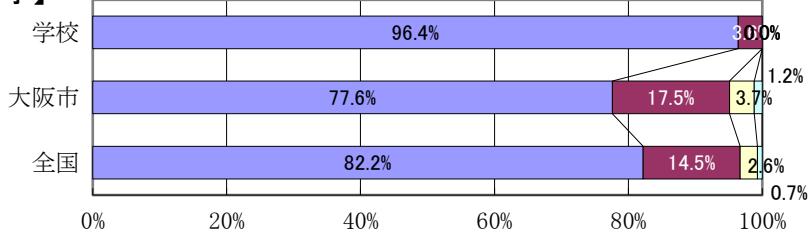
ふだんの生活について

質問番号	質問事項
------	------

6

朝食は毎日食べますか(学校が休みの日もふくめます)

【男子】



【女子】

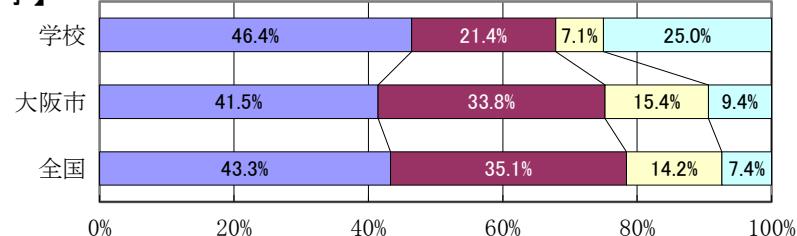


- 毎日食べる
- 食べない日もある
- 食べない日が多い
- 食べない

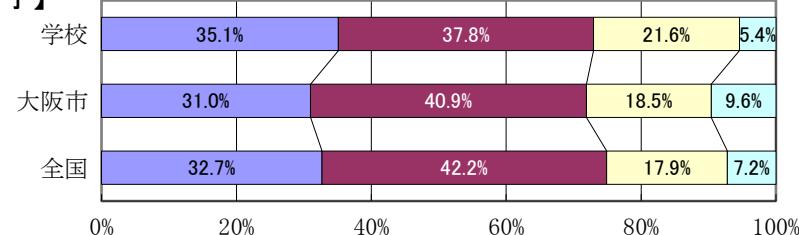
10

放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動(体を動かす遊ぶをふくむ)やスポーツをすることがありますか。

【男子】



【女子】



- よくある
- ときどきある
- あまりない
- 全くない

成果と課題

「朝食は毎日食べますか」で「毎日食べる」と答えた児童は、男子は96.4%となり、大阪市平均、全国平均と比べて高い結果となった一方で、女子は70.3%となり、大阪市平均、全国平均と比べて低い結果となった。また、「放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動(体を動かす遊ぶをふくむ)やスポーツをすることがありますか」で「よくある」「ときどきある」と答えた児童は、男子が67.8%で大阪市平均、全国平均と比べて低い結果となった一方で、女子は72.9%と大阪市平均と比べて高い結果となった。体力の基盤となる食育や心身の健康などの普段の家庭での取り組みは、体力向上には欠かせないと考えられる。規則正しい生活リズムを確保しながら、進んで運動やスポーツをする習慣を形成していくよう、家庭への啓発を継続的に進める必要がある。

今後の取組

これまでと同様に、心身の健康と体力の向上のための生活習慣づくりは家庭での役割が大きく、子どもの自主性に頼るだけではなかなか身につけられないことを、学校だより、保健だより、食育だよりなどを通して保護者に働きかけていくと共に、PTA実行委員会や学級懇談会等を活用して、保護者に直接声かけをし、啓発していく。また、年間指導計画に基づいた食育指導の充実をはかり、児童・保護者にも食育の重要性をさらに深く理解してもらえるよう続けて取り組んでいく。

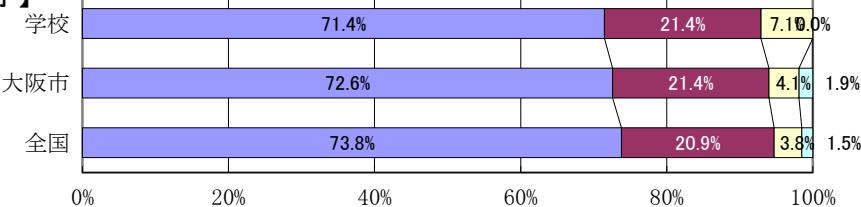
体育の授業について

質問番号	質問事項
------	------

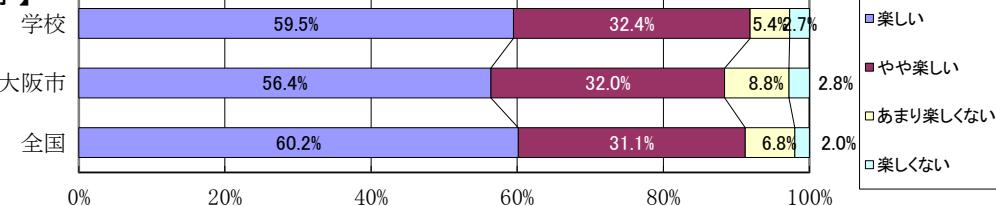
11

体育の授業は楽しいですか

【男子】



【女子】



17

これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか

【男子】

□学校 ■大阪市 □全国

- 1 授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった
- 2 自分に合った場やルールが用意された
- 3 友達に教えてもらった
- 4 授業外で先生に教えてもらった
- 5 授業外で自分で本やビデオを見た

- 1 授業中自分で工夫した
- 2 先生や友達のまねをしてみた
- 3 授業中に自分の動きをビデオで見た
- 4 授業外で自分で練習した
- 5 できるようになったことがない

【女子】

□学校 ■大阪市 □全国

- 6 授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった
- 7 自分に合った場やルールが用意された
- 8 友達に教えてもらった
- 9 授業外で先生に教えてもらった
- 10 授業外で自分で本やビデオを見た

成果と課題

「体育の授業は楽しいですか」の質問に、「楽しい」「やや楽しい」と答えた児童は、男子92.8%女子91.9%となり、男女とも9割を越える結果となった。好結果ではあったが、男子は大阪市・全国平均を下回った。

体育の授業で「できなかったことができるようになったきっかけ・理由」はこれまで男女間で結果に差が見られたが、今年度は、男女共に「授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」「先生や友達のまねをしてみた」「友達に教えてもらった」が比較的多い結果となった。

今後の取組

本校は運動場が極めて狭く、限られた運動スペースの中ではあるが、時間割の調整や校舎南側の道路の活用などを継続的に行い、十分な運動時間が確保ができるようにする。また、課題を克服するときに、各学年で何を教え、どんな力を身につけさせたいか年間計画を立て、児童の特性に投じた指導方法の工夫と改善を進め、「楽しい」と思える体育の授業改善にいっそう努めていく。

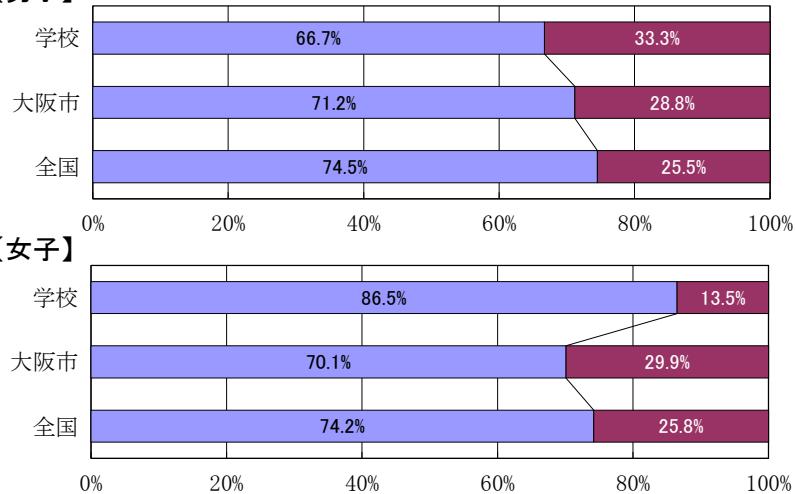
その他

質問番号	質問事項
------	------

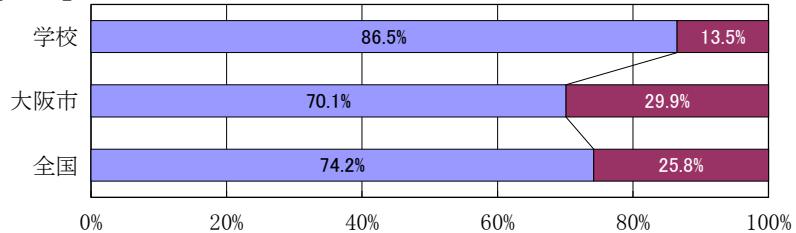
30

体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てていますか

【男子】



【女子】

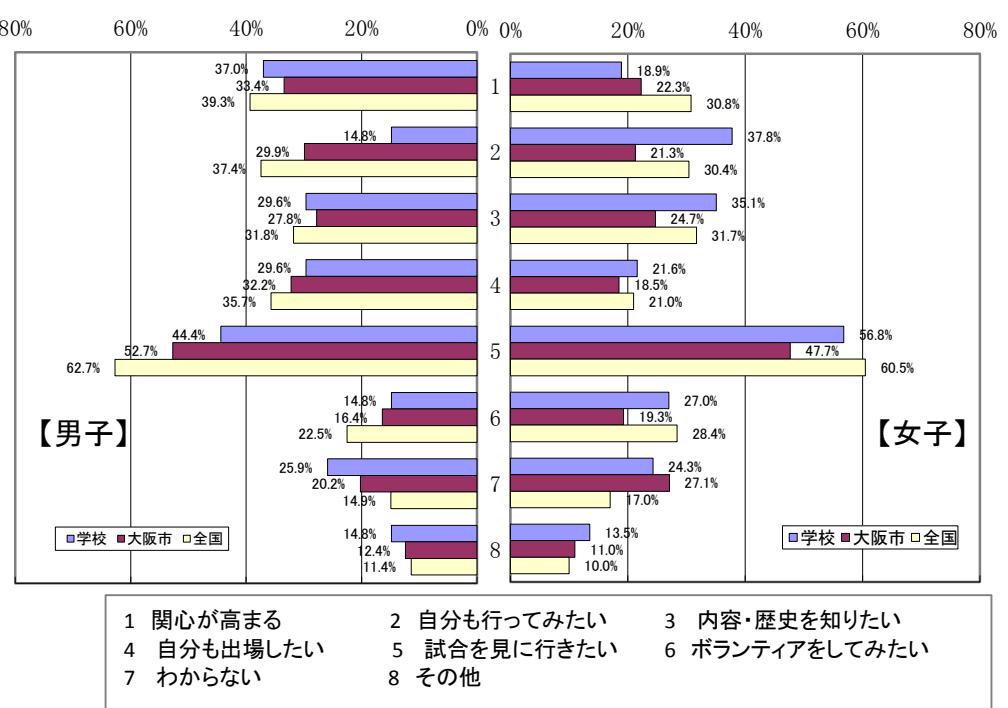


■ 目標を
立てている

■ 目標を
立てていない

31

オリンピック・パラリンピックへの気持ち



成果と課題

今回の全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、男女ともに好成績が得られたが、男子に比べて女子が自分なりの目標をもって、臨んだことが功を奏したことが結果から表れている。

オリンピックやパラリンピックへの気持ちについては、男女ともに「試合を見に行きたい」が最も高い結果となった。

今後の取組

目標をもってさまざまな種目に取り組ませることが、子どもたちには必要であり、効果的であることが分かったことから、今後もめあてをしっかりとさせながら体力向上の指導に努めていく。また、今年、日本で開催されるオリンピック・パラリンピックの開催によって高まる運動やスポーツへの関心を、児童の意識向上につなげ、体力向上の取り組みをさらにすすめていく。